

# 地域包括ケアシステム構築に向けた進捗状況について

資料 1

## 1 地域包括ケアシステム構築へ向けた事業計画について

事業名	内容	本町の事業開始時期
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携の推進	平成28年4月1日
生活支援体制整備事業	生活支援サービスの充実・強化	平成28年4月1日
認知症総合支援事業	認知症施策の推進	平成29年4月1日

## 2 地域包括ケアシステム構築に向けた各事業の進捗状況について

### 在宅医療・介護連携推進事業


#### (1) 目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するための支援を行う。

#### (2) 在宅医療介護連携に関する課題

- ・尾張中部地域（清須市・北名古屋市・豊山町）内で在宅利用を提供する医療機関等の資源は少ないため、近隣市町の資源も活用した連携体制の構築が必要
- ・尾張中部地域外の患者流出が多く、退院時の連携不足により住民が必要な医療及び介護サービスを切れ目なく利用できない恐れがある
- ・医療と介護関係者の情報共有ツール（電子@連絡帳）を広域的に導入しているが、さらに利用者が増えるよう普及や内容の改善が必要。

#### (3) 事業構成及び実績

 =今年度新規事業

	項目	内容	平成29年度実績
1	地域の医療・介護資源の把握	平成28年8月より豊山レインボーネット（地域資源マップ）をインターネット上で公開 尾張中部地域及び近隣地区の在宅医療実施医療機関の情報把握及び関係機関への情報提供	登録数 医療機関 12施設 介護施設 39施設 アクセス数 38,343件 (清須市、北名古屋市含む)
2	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	医療関係者向けの在宅医療に関する意向調査、データ分析 豊山町地域包括ケアシステム推進協議会の開催	年2回開催

3	切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	尾張中部地域の高齢者が利用する入院機関等を把握し、退院支援時の連携を強化する	
4	在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	尾張中部地域在宅医療・介護連携推進協議会（資料2）及びワーキング会議への出席	協議会 ワーキング会議 年1回 年4回
5	医療・介護関係者の情報共有の支援	平成28年8月より豊山レインボーネット（電子@連絡帳）をインターネット上で公開。平成30年10月より委託契約会社変更により機能を向上させ、利用普及を図る。	電子連絡帳 患者数4件 支援関係者数 12施設・13人
6	在宅医療・介護連携に関する相談支援	相談業務の実施	相談時対応
7	在宅医療・介護関係者の研修	尾張中部医療圏在宅医療・介護連携研修会（実施主体：尾張中部地域在宅医療・介護連携推進協議会）	テーマ 末期がん患者～在宅での看取り～ 参加者：116人
		豊山町介護支援専門員研修会 年2回開催	年2回開催（内1回は薬剤師との多職種連携研修会を開催） 参加者（延）30人
		豊山町ケアマネ会の運営支援	豊山町ケアマネ会設立支援 （平成30年1月16日設立）
8	地域住民への普及啓発	在宅医療推進講演会 （11月頃開催予定）	・在宅医療推進講演会「在宅医療を知ろう」 参加者：29人 ・尾張中部地域ケアサミット （講演会、首長によるパネルディスカッション） 平成29年10月8日（日） 参加者：246人

#### （4）在宅医療サポートセンターとの連携について

在宅医療サポートセンターは愛知県から県医師会に委託し設置をされていたが、平成30年3月末で委託事業が終了。

在宅医療・介護連携推進事業を効果的に実施するため、平成30年4月1日より清須市・北名古屋市・豊山町は合同で西名古屋医師会に委託し、在宅医療サポートセンターを設置。上記の事業展開を在宅医療サポートセンターと市町が連携をとりながら実施していく。

## 生活支援体制整備事業

### (1) 目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者等の多様な生活支援のニーズを抱える高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために必要な生活支援サービスについての基盤整備を推進する。

### (2) 課題

高齢者が何らかの事情により他者の援助を必要とする場合、利用できる支援が介護保険サービスに依存しているが、住民のニーズに対応しきれない場合も多いため、他の支援体制の構築が必要。

### (3) 事業構成及び実績

＝今年度新規事業

事業	内容	平成29年度実績
協議体（地域の高齢者支援に携わる方との情報共有及び連携・協働をする場）の開催	年3回開催	年4回開催
コーディネーター活動	8月より介護支援ボランティアポイント制度開始（資料3）。 （今年度は介護保険施設や地域包括支援センター及び町のイベントでのボランティア募集を実施。今後、個人宅へのボランティア派遣も検討していく。）	65歳以上の方向け「高齢者いきいき安心生活ガイド」作成（資料4）

## 認知症総合支援事業（認知症初期集中支援チームの設置）

### (1) 目的

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

[訪問支援対象者]

原則として40歳以上で在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する者

- ①医療サービス、介護サービスを受けていない者、または中断している者で以下のいずれかに該当する者
  - ・認知症疾患の臨床診断を受けていない者
  - ・継続的な医療サービスを受けていない者
  - ・適切な介護サービスに結び付いていない者
  - ・介護サービスが中断している者
- ②医療、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

## (2) 課題

- ・認知症の初期段階で医療受診につながらず、進行し生活や家族に支障が出始めてから、受診や相談につながる方が多いため、早期診断・早期対応ができる体制が必要。
- ・家族が認知症介護の負担を抱え込みやすいため、家族への支援が必要。
- ・徘徊症状により行方不明の恐れがある方の相談が増加しており、地域住民の協力を基にした支援体制の構築が必要。

## (3) 事業構成及び実績

事業	内容	平成29年度実績
認知症初期集中支援チーム設置	・認知症初期集中支援チームの普及 ・相談時、随時訪問 ・月1回チーム員会議開催	平成29年5月より済衆館病院に委託し設置。チーム員内訳（サポート医 1名、作業療法士1名、看護師1名、介護福祉士1名）。

## (4) 参考（その他の認知症施策に関する事業）

	事業名	内容
①	おかえりネット	認知症の方が徘徊により行方不明となった場合に、家族等からの依頼により、その方の身体的特徴や服装等の情報をおかえり支援サポーター（メール配信登録者）に対してメール配信し、情報提供等の協力を依頼する。より多くの人の協力で行方不明者を早期に発見し安全を確保するためのネットワークを構築する。
②	徘徊高齢者家族支援事業（GPS貸与）	徘徊のおそれがある認知症高齢者を介護している家族に、徘徊時の位置情報を把握するためGPSの貸与の補助を行い、対象者の早期保護及び家族負担の軽減を図る。
③	豊山町認知症ケアブック（認知症ケアパス）普及（資料5）	認知症の疑いがある方が早期に医療や介護サービスの支援を利用することができるよう、認知症に関する正しい知識や、町の相談先、認知症の方及び家族への町の支援等の情報をまとめたガイドブックを配布。
④	認知症サポーター養成講座	認知症の方やその家族が安心して生活しやすい地域づくりを行うため、地域住民に認知症の症状や対応について普及する。
⑤	オレンジカフェ（認知症カフェ）	認知症の方やその家族が、地域の人や専門職と相互に情報提供をし、お互いを理解し合う場を提供する（社会福祉協議会事業に協力）。